

## 保育者養成校における野外活動実習（夏）のあり方に関する研究

—NEAL の資格取得効果と学生の学びの振り返り—

塩崎 みづほ  
新戸 信之

A study on the Outdoor Activities Program (Summer) in ECEC Training School  
-Focusing on effect of the NEAL qualification acquisition and review of student's learning

Mizuho Shiozaki  
Nobuyuki Shindo

キーワード：保育者養成、自然体験活動、NEAL

Key Words : ECEC, Outdoor Activity, NEAL

要約：本学幼児教育学科において、2018年度より自然体験活動指導士（NEAL）の資格取得を取り入れた野外活動実習に取り組んでいる。そこで、実習前後で質問紙調査を実施し、この活動が学生たちにとってどのような学びにつながったのか、本実習の効果、課題点を見出すことを目的とし、研究を行った。結果と考察から、自然体験活動を行う機会として、本実習が役立っている、効果がある点が明らかになった。また、学びとしては、保育者として、指導者として必要なスキルである、コミュニケーション力についての学びが深まったという意見が多くみられた。今年度導入したNEALの資格取得プログラムについても、動機づけ等において実施する効果が見られた。

Abstract : At the department of early childhood education at our university, we are working on outdoor activity practice incorporating acquisition of qualification of nature experience activity guidance officer (NEAL) from fiscal 2018. Therefore, we conducted a questionnaire survey before and after practical training, and conducted research to find out what kind of learning this activity had for students, the effect of this practice, and the problem. Results and discussion revealed the point that this practice is useful as an opportunity to conduct nature experience activities. In addition, as learning, there were many opinions that learning about communication skills, which is a necessary skill as a childcare person and a leader, has deepened. Even for NEAL's qualification acquisition program introduced this fiscal year, there was an effect to be implemented in motivation etc.

## 1. はじめに

新・幼稚園教育要領の中で、幼児期に自然と触れることの大切さが示され、そのための工夫が求められるなど、保育現場における自然との関りの重要性が繰り返し多くの研究者や保育者により確認され、様々な実践が提案されている。一方で、その実践において知識や技術不足を感じている保育者が多く見受けられる。本学の学生をみてもやはり例外ではなく、知識不足や経験不足に起因すると思われる言動が少なからず見受けられる。

そこで、本学幼児教育学科では、自然と生命を尊重する心をもった学生の育成をディプロマポリシーに取り入れ、「自然」に興味関心を持ち、自らの経験を子どもたちに伝えられる保育者の育成を目指し、2～3年間を通じて学びを深めていくことができるよう、関連する授業において教員間で連携し実践している。その中のひとつとして、「体育実技」の授業内容を見直し、昨年度より自然をテーマとし、環境教育実習（夏）と（冬）の2種類の選択コースを設け、希望学生が3泊4日で野外集中実習を行うこととした。夏の実習は2017年度より実施し始め、今年度（2018年度）は、NEAL（Nature Experience Activity Leader：自然体験活動指導士）の資格取得のプログラムを取り入れることとした。実習を実施するにあたって、保育者養成校であること、本学独自のプログラムにすることといった点にこだわり、場所や内容についての検討を重ね、野外活動の知見を有するスタッフにも協力を依頼し、実施に至った。

そこで、本研究では、環境教育実習夏が学生たちにとって有意義な体験となり得たのか、さらにはどのような学びがあったのかについて考察し、今後の実習内容について検討する上での一資料とすることを目的としている。

## 2. 方法

### (1) 調査対象者

本学1年次開講の「体育実技」履修者の中で「野外環境教育実習（夏）」の選択授業を希望した学生14名。本学専攻科1年次開講の「体育演習」履修者で参加を希望した学生2名、及び参加を希望した新戸ゼミに在籍する地域保育学科3年生1名の合計16名。うち、有効回答数13名。

### (2) 実習実施場所と実施期間及びその内容について

①場所：国立赤城青少年交流の家

②期間：2018年9月4日～9月7日 3泊4日

③協力スタッフ：国立磐梯青少年交流の家 事業推進室長・NPO 法人あかぎ森のようちえん理事長 他

#### ④目的

- i 自然環境に関心を持ち、自然の大切さ、生命の循環について学び、自然の中での活動を体験する
- ii 自然の中での活動を通して、保育者としての知識、指導法について学ぶ
- iii 仲間との共同生活を通して、協力性・協調性を養う
- iv 自然体験活動指導者（NEAL）の資格取得を目指す

⑤内容：表1の通り

### (3) 調査の流れ

①学生へ実習前後において「自然」についての質問紙調査を実施した。その結果から学生が自然から学んだことについて考察する

②本実習についての質問紙調査および、実習中のレポートより、学生が実習を通して感じたこと、学んだことについて考察する。

③以上の結果と考察から今後の課題点をまとめる。

時間	9/4 1日目	9/5 2日目	9/6 3日目	9/7 4日目
6		起床	起床	起床
7		朝のつどい	朝のつどい	朝のつどい
8		朝食	朝食	朝食・退所準備
9	短大集合・出発	実習「幼児の自然遊びについて」 『森の宝物さがし』	実習「野外炊事」	NEALの試験
10			『ドラム缶ピザとポトフ作り』	
11			・薪割→火起こし体験	森のようちえん見学
12	開講式	昼食	・ピザ生地づくり	昼食
13	アイスブレイク	講義「自然体験の特質」	・ポトフ作り	閉校式
14		『あかぎの特質』		帰路
15		『幼児の自然と遊び』	講義「安全管理について」	
16		朝霞どろんこ保育園の実践例	「森のようちえんについて」	
17	ゆうべのつどい	ゆうべのつどい	ゆうべのつどい	
18	夕食	夕食	夕食	
19	講義「NEAL概要」	演習「キャンドルファイアについて」概要と、スタンプ決め、練習	実習「キャンドルファイア」	
20				
21	入浴等	入浴等	入浴等	
22	就寝	就寝	就寝	

### 3. 結果と考察

(1) 実習前後における自然に対する考え方の変化について

自然体験をどの程度してきているのか、あるいは自然体験について現段階ではどのような考えがあるのかについて知る上で、「子どもと自然の中で遊ぶ活動」についてと、『『自然』と聞いて思いつく単語』の2点について実習前後で質問を行った。その結果、「子どもと自然の中で遊ぶ活動」については、実習後における回答数が明らかに増えており、回答の内容にも変化がみられた(表2)。活動プログラムの中で、「森の宝探し」を行った際に、虫を探したり、植物を観察したりすることはあったが、それらを捕るといった活動はしなかった。それは、もちろん自然物を大切にするという教えがあったからであり、その気持ちを持って臨んだことが学生に響いたとみることができよう。また、「秘密基地づくり」「笹舟作り」も、森の宝探しをしている時にス

表 2 子どもと自然の中で遊ぶ活動(n)

活動内容	事前	事後	活動内容	事前	事後
木登り	7	10	キャンプファイア	2	3
虫取り	9	5	花冠	3	3
川遊び	5	7	キャンプ	1	1
泥遊び	3	2	だるまさんがころんだ	2	1
山登り	1	1	虫探し	0	4
宝探し	1	4	ハンモック	0	3
落ち葉どんぐり拾い	3	1	探検	0	1
かぐれんぼ	3	2	縄梯子	0	1
木の枝集め	2	0	星観察	0	1
砂場	1	0	ブランコ	0	2
野外炊事	2	4	笹舟作り	0	1
自然物でのクラフト	3	1	秘密基地作り	0	2
スケッチ	2	0	音を聞く	0	1
魚釣り	3	1	葉っぱのお面づくり	0	1
石積み	2	0	草相撲	0	1
ままごと	1	0	葉っぱ遊び	0	1
植物集め	3	2	草むらに寝転がる	0	1
植物観察	2	4			

タッフと共に見学および体験したことから、回答に挙げられたものと考えられる。「音を聞く」といった回答も森の中を散策する体験により得られた回答とみることができよう。さらに、「ハンモック」「葉っぱのお面」「木登り」「縄梯子」「ブランコ」などは、「森のようちえん」見学の時に子どもたちが楽し

んで行っている様を見ることによって得られた回答と考えられる。体験することの重要性が明らかになったといえる。

次に、自然と聞いて思いつく単語を最大 10 個まであげてもらった (表 3)。ここでも、少数回答ではあったが、事後の回答だけに出てくる単語は、興味深いものであった。「きのこ」はたくさん生えており色や形の違いをみつけて楽しんでおり、自然界にはいろいろな種類のきのこがあり、たくさん生息していることを実感したものと思われる。「薪割り」「火起こし」に関しては、ドラム缶ピザ作りで個々に火を起こすという体験をした。なたを初めて扱う学生がほとんどであり、扱い方の注意点、やり方の難しさなどを実感したようだった。また、マッチで火をつける活動も初めての学生もおり、体験することの大切さを改めて実感させられた。その他、「危険」「安全」といった単語もあげられており、「安全管理」の大切さについて講義と実技で感じたものとみることができよう。自然は楽しく有意義なものであるが、一方で危険もあるため、正しい知識をもって安全管理体制を構築することの重要性について気付かせることができたことから、プログラムに一定の効果があったものと考えられる。また、「自由」「楽しい」といった単語もあげられており、自然体験活動をおこなったからこそ、身をもって感じたことだと推測できる。

少数回答とはいえ、実際に自然体験活動を行うことによって、視野が広がり、自然の中で行う遊びや自然への認識に違いが出るということが明らかになった。これから保育者として子どもたちと関る学生たちにとっては、とても大切なことであり、子どもたちへ伝えてほしい事項である。

## (2) 実習についての質問紙の結果から

### ① 野外実習夏に参加した理由について (表 4)

もっとも高かったのが、「体育実技の単位になるから」(66.7%)であった。次いで、「NEALの資格が取得できるから」(60%)、「自然に興味があるから」(53.3%)となった。幼児教育学科1年生の体育実技では単位化しているため、その効果は大きいものとみることができよう。また、今年度より行っている資格取得も効果があることがわかる。この要素は今後も継続していく方がよいだろう。

### ② 活動プログラムで楽しかったものについて (表 5)

それぞれ3位まで順位をつけて回答してもらった。1位は「ドラム缶ピザ作り」(46.2%)、「キャンドルファイア」(23.1%)、「森の宝物さがし」(15.4%)の順であった。2位についても上位3つの活動は同じであった。3位では、「アイスブレイク」(23.1%)が入ってきている。また、講義も「NEALについて」「安全管理について」(共に15.4%)が挙げられている。これらの講義は、保育

表 3 自然と聞いて思いつく単語

単語	事前	事後	単語	事前	事後
木	10	7	風	1	3
あたたかい	1	0	マイナスイオン	1	0
山	6	3	気候	1	2
森	8	5	雨	2	1
虫	10	6	星がきれい	1	0
空	4	2	BBQ	1	0
緑	4	1	湖	1	0
植物	9	5	太陽	2	1
土	3	5	苔	1	0
涼しい	1	1	火起こし	0	1
川	9	7	薪割り	0	1
動物	6	3	きのこ	0	3
水	2	2	楽しい	0	1
鳥	5	2	木の根	0	1
林	1	1	静か	0	1
魚	4	1	季節	0	1
空気	2	0	木の葉	0	4
きれい	1	1	蝉の抜け殻	0	1
キャンプ	3	1	危険	0	1
海	1	6	安全	0	1
落ち着く	1	0	火	0	1
生き物	1	0	音	0	1
花	4	5	秘密基地	0	1
酸素	2	0	自由	0	1
紅葉	1	1			

質問事項	%
NEALの資格が取得できるから	60
秋短独自のプログラムだから	13.3
体育実技の単位になるから	66.7
球技などが苦手だから	6.7
自然に興味があったから	53.3

者養成を意識しているものであり、幼児との活動を想定した講義内容に重きを置いて行なってもらった。安全管理の講義では、現保育者が子どもと川遊びや泥遊びを行っている映像と共に、危機管

質問事項	1位 (%)	2位 (%)	3位 (%)
アイスブレイク	0	7.7	23.1
NEALの概要についての講義	0	7.7	15.4
森の宝物さがし	15.4	15.4	23.1
自然体験活動の意義についての講義	7.7	0	0
ピザ作り	46.2	23.1	0
安全管理についての講義	0	0	15.4
森の幼稚園についての講義	0	0	0
森のようちえん見学	7.7	15.4	15.4
キャンドルファイア	23.1	30.8	7.7

理や自然体験の大切さについての講義も取り入れた。こうした内容の効果が多少なりともあったものと考えられる。また、資格取得を取り入れたことで、講義をしっかりと聞くというモチベーションにつながったと考えられる。

### ③実習に参加してよかったと思う内容について (表 6)

質問事項	1位 (%)	2位 (%)	3位 (%)
資格取得をめざしたこと	30.8	23.1	38.5
アイスブレイクを体験できたこと	0	0	7.7
野外炊事について体験できたこと	7.7	23.1	0
森の宝探しを体験できたこと	7.7	0	15.4
木登りができたこと	0	7.7	0
森のようちえん見学ができたこと	7.7	15.4	23.1
新しい仲間ができたこと	38.5	15.4	7.7
自分の克服したいことができたこと	7.7	7.7	0
キャンドルファイアを体験できたこと	0	7.7	7.7

それぞれ3位まで順位をつけて回答をしてもらった。1位では、「新しい仲間ができたこと」(38.5%)がもっとも高く、自然体験活動実習の意義があったものとみることができる。

次いで「資格取得を目指したこと」(30.8%)であった。2位の上位は「資格取得を目指したこと」「野外炊事体験」(共に23.1%)であった。3位では、「森のようちえん見学ができたこと」(23.1%)となっており、これは本学独自のプログラムならではの活動なので、今後も継続していきたい内容である。宿泊を伴う実習では、緊張した中にあり仲間の支えや協力があって成り立つものと考えている。到着後の「アイスブレイク」前と後では、学生の表情に大きな違いが出ている。クラス学年を超えて、新しい仲間と出会える楽しさ、そこへ至るにはコミュニケーションをとることの大切さについて体験できていることをこの結果からみることができ、大きな意義のひとつといえよう。また、少数意見ではあったが、「自分の克服したいことができたこと」という項目もあげられていた。自分なりに目標をたて、望んでいる学生がいることが見受けられた、喜ばしい点である。

### ④学生のレポートから

実習中、学生に課した各活動についてのまとめと感想、そして4日間を通じた考察をレポート課題として課した。その中から考察として記された学生のコメントを挙げ、そこからみえてくる課題等について考察する。

○私はこの実習に参加して、自然と触れ合い、発見し、自分の意見を発言し、保育者の立場に立って自然について考えることができました。また、NEALの資格を取るという貴重な体験をす

ることで、保育者に必要な安全、応急処置、道具の使い方などを学ぶことができました。さらに、今回のアイスブレイクやキャンドルファイアなどで、班のみんなはもちろん、他の 15 人の友達や先生方とも距離を縮められかなと思います。笑顔の力って凄いと改めて感じました。この 4 日間で自分の嫌いなところも少しは克服できたと思うし、失敗して弱かった心が強くなれたかなと思います。今回得た知識、心の温かさを生かしてこれからの短大生活を過ごし、保育者になっても役立てていきたいです。

- この実習を決めた時は、体育の授業の一環として参加しようという考えがありました。また、仲間と交流がうまくいかなという不安もありました。しかし 1 日目のアイスブレイクを通して、私のことを理解し、認めてくれる仲間に出会えて、緊張していた心が溶けました。2 日目以降は、自分の素を出しながら活動することができました。NEAL の資格を得るための自然活動や講義は、どれもこれから現場に出るために役立つようなことばかりでした。自然で活動するときは、天候やまた丸太をなたで切るなど、いろいろ気をつけるべきことがあるので、子どもたちが安全に楽しむことができるようにするには、下準備が最も重要であり、大切だということ学びました。私は、自分の意見を話すのが苦手だったのですが、この 4 日間で司会を任されたり、班長でまとめたり、自分の意見を発表して共感をもらったり、普段の生活では味わうことのできない体験をたくさんし、大きく成長したと思います。3 日目のキャンドルファイアでは、自分を見つめ直す機会にもなりました。これからの生活に生かしていきたいです。
- 今回の実習では、資格取得が目的だったけど、色々な人と関わり、初対面の人ともうまく関わるという目標をたてて臨みました。私は、嫌なことがあるとすぐに顔に出てしまったり、自分が疲れている時にも疲れた顔をしてしまって、なかなか先生やスタッフの方のようにはできないなと思っていました。しかし、スタッフの N さんのように、自分が楽しいと思えることをしたり、人生楽しい！と思えてあんなに自信満々に言えるような人になりたいので、これからはもっと意識して自分を高めていこうと思いました。
- この実習を通して、まず自分が人間的に成長できたと思います。それは、積極的になること、チャレンジすることが大切だと学び、たくさん挑戦することができたからです。初対面の人しかいないグループでも、自分から歩み寄れば仲良くなることができたし、今まで話し合いをまとめたりするのは苦手でしたが、スタンプの時に自然と話し合いができていたときには、誰でもリーダーになれる、の意味がわかりとてもうれしかったです。他人と比べたり消極的にならずに、これからは、自分の意見もなるべく皆に言葉で伝えられるようにしていきたいと思いました。また、アイスブレイクやスタンプでは、人の気持ちを想像しながら動くということの大切を学びました。自分のことだけではなく、周りが今どういう気持ちなのか、皆が心の安全を保つためにはどうしたらいいかをなるべく考えるように普段から生活したいと思いました。そして、自然体験活動を子どもたちと行う際には、子どもたち一人ひとりが遊びを見つけられるように、そして安全に活動できるように環境を構成し、下見をしっかりと行うことが指導者の役目だと思いました。
- 今回自然に囲まれて過ごすことで自然をもっと身近に感じることもできたように感じます。子どもと自然をつなぐにはどうしたらいいのか、今回の研修を通して学ぼうと思っていました。が、保育者が自然と子どもの架け橋を作るのではなく、自然と触れ合い、遊ぶことを通して、自然とつながろうとする子どもを見守ったり、より興味を広げられる関りをする中で、子どもと自然との距離を縮める手伝いをするイメージに変わりました。コミュニケーションについて、初日のアイスブレイクの時「伝える」と「伝わる」の違いについて話を聞きました。実際、様々な活動を行う中で、自分では伝えているつもりでも、伝わるのには時差があったり、思ったように伝わらないことが何回もありました。伝える意欲も大切ですが、どう

したら相手に伝わりやすいかもっと考えて言葉を選んで話をしたいと思いました。また、一緒に生活する中で、知らなかった相手の一面を知ることができたり、話すと楽しかったりと、新しい発見が多かったと感じました。相手を知るには、自分から相手のコミュニケーションを積極的にとることが必要だと改めて感じ、勇気を出して関わっていきたいと思いました。今回の実習を通して、相手のことだけではなく、自分のことについてもよいところ、悪いところを含めて見えてくる部分がたくさんありました。これから、良いところは伸ばし、悪いところはどうか良くしていくか考えていきたいと感じました。

学生の感想から、自然体験活動を通し、新しい仲間と出会い、そこから改めて自己を見つめ直す機会になったことがわかる。学校生活では味わうことのできない場であること、機会であることは学習効果に少なからず影響を与えているものと考えられる。また、NEALという資格を取得するという目標があったからこそ、講義にも意欲的に取り組み、指導者としての視点をしっかりと持つことができたことも伺うことができた。また、野外環境教育の外部スタッフを設けることで、学生にとって新しい出逢いがあり、野外活動のプロとしての講義を聞く機会の大切さについても見る事ができた。様々な生き方、様々な人の考え方を聞くことは、これから指導者、保育者を目指す学生にとってはよい刺激となっていることがわかった。

#### 4. まとめ

本研究では、野外環境教育実習(夏)が、学生たちにとってよい学びとなり得たのかといった点について明らかにするものであった。実習前後に行った質問紙調査から、「自然活動」に対する考え方が、実習後では明らかに広がりが出ている様子が伺えた。自然体験活動を行う機会として、本実習が役立っている、効果がある点は明らかだといえる。また、学びとしては、保育者として、指導者として必要なスキルである、コミュニケーション力についての学びが深まったという意見が多くみられた。学外で、クラス合同で、集中的に実施するからこそ得られる学び方ではないだろうか。そして、今年度導入したNEALの資格取得プログラムについては、参加のきっかけになっていること、資格取得に向け指導者として関わることの重要性に気付いたこと、講義に興味を持って臨めたこと、といった回答から、学びおよび、実習に取り入れる効果があったとみる事ができよう。

今回は野外環境教育実習について一定の効果があることが明らかになった。しかしながら、調査の仕方については課題が残る。人数に合わせた質的調査の行い方、また、質問紙の項目、データの分析法について検討し、さらによりよい実習プログラムを提供できるよう改良を重ねていきたい。

#### 参考文献

- 1) 岡健吾「幼児への自然体験プログラムの実践と展望」札幌大谷大学紀要(48).pp.103-108.2018
- 2) 塩崎みづほ・北澤明子「環境教育実習を通して一学びの振り返りー」日本自然保育学会第2回大会発表要旨集. pp.46-47.2017
- 3) 菊池理恵・野田さとみ「保育者養成校における野外活動実習の効果について」名古屋柳城短期大学研究紀要(38).pp185-190.2016
- 4) 井上美智子・無藤隆「幼稚園・保育所における自然体験活動の実施実態」教育福祉研究(33).pp.1-9.2007